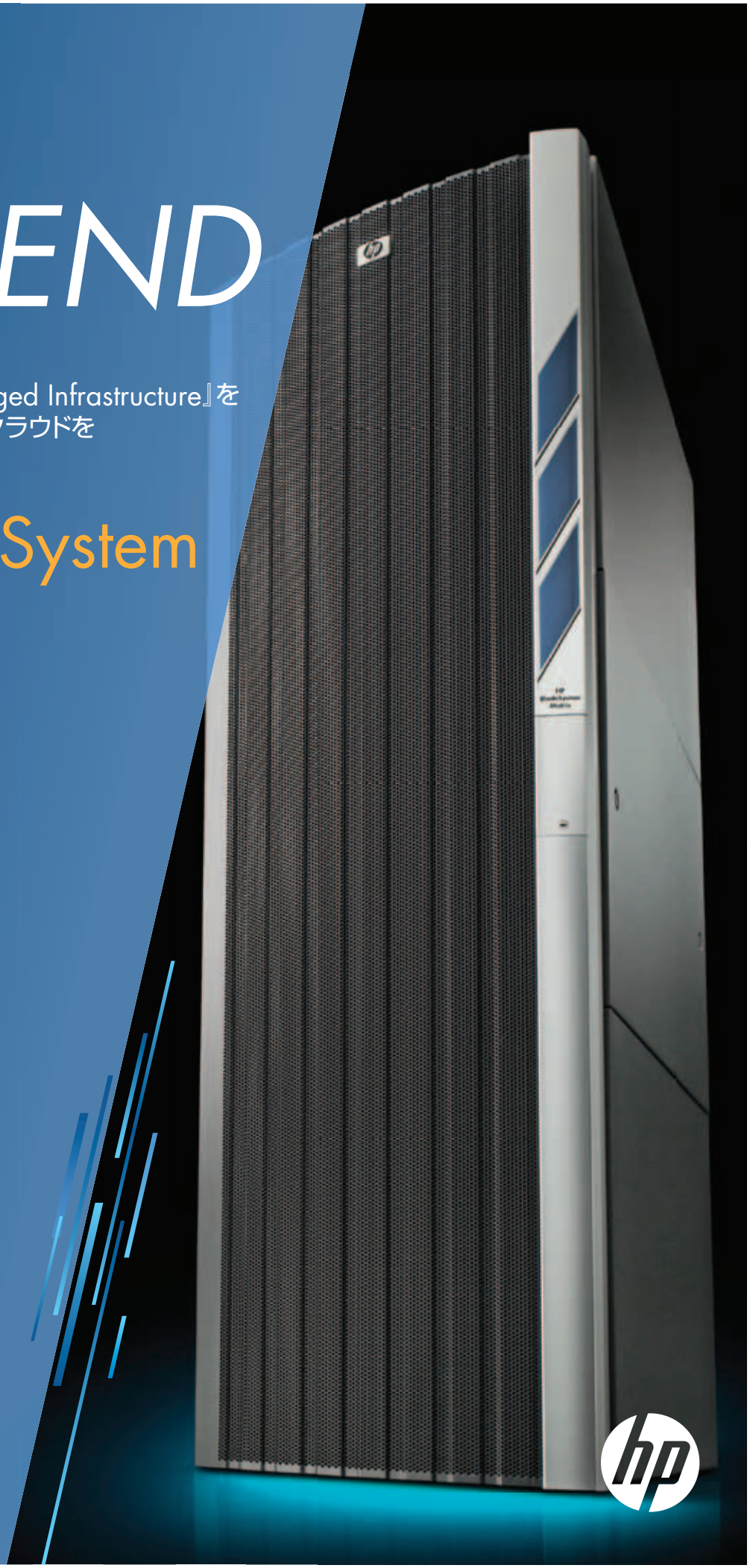
ASCEND

HPのIT戦略『HP Converged Infrastructure』を
具現化したプライベートクラウドを
実現するプラットフォーム

HP CloudSystem Matrix



HPのIT戦略『HP Converged Infrastructure』を具現化した
プライベートクラウドを実現するプラットフォーム

HP CloudSystem Matrix

ITスプロールからの脱却

アプリケーション要件に合わせてシステム構築を行ってきたことにより、異機種混在の膨大なハードウェア環境が形成され、多くの企業におけるIT運用の課題となっています。
一般に、これらシステム維持にかかる費用は、年間のIT予算の70%と試算されており、システム変更に対する柔軟性の欠如とともに、業務プロセスの刷新・変化や新規ビジネスの立ち上げに伴う新規システムの導入の足かせとなっています。

このITスプロールから脱却するための手段として、必要な時に必要なITサービスを迅速に構築・提供可能な基盤として、物理・仮想環境を集約・統合プラットフォーム「HP CloudSystem Matrix」が最適解です。

アイコンを使って図を描き
システムを**自動構築**

仮想・物理サーバーの
混在システム対応

システムを提供する際の
コスト・期間設定

仮想サーバーの最適配置を
シミュレーション

HP CloudSystem Matrix導入のメリット

プライベートクラウド環境の実現
柔軟なリソースプールを提供し、要求に対して迅速にシステムを構築・提供が可能

アプライアンス型による容易な導入
必要なリソースと管理機能をすぐ使える状態で納品。コンフィグレーションや購入後のセットアップに関するお悩みは不要

運用管理工数の削減
直観的にわかりやすいGUI管理機能と、ネットワーク再配線不要に加え、物理・仮想環境に対応した管理ツールにより、運用管理の工数を大幅削減

圧倒的な導入実績と信頼性
世界で最も売れているHP CloudSystem c-Classを中核に、販売実績豊富なコンポーネントで構成された、安心と実績のあるアプライアンス

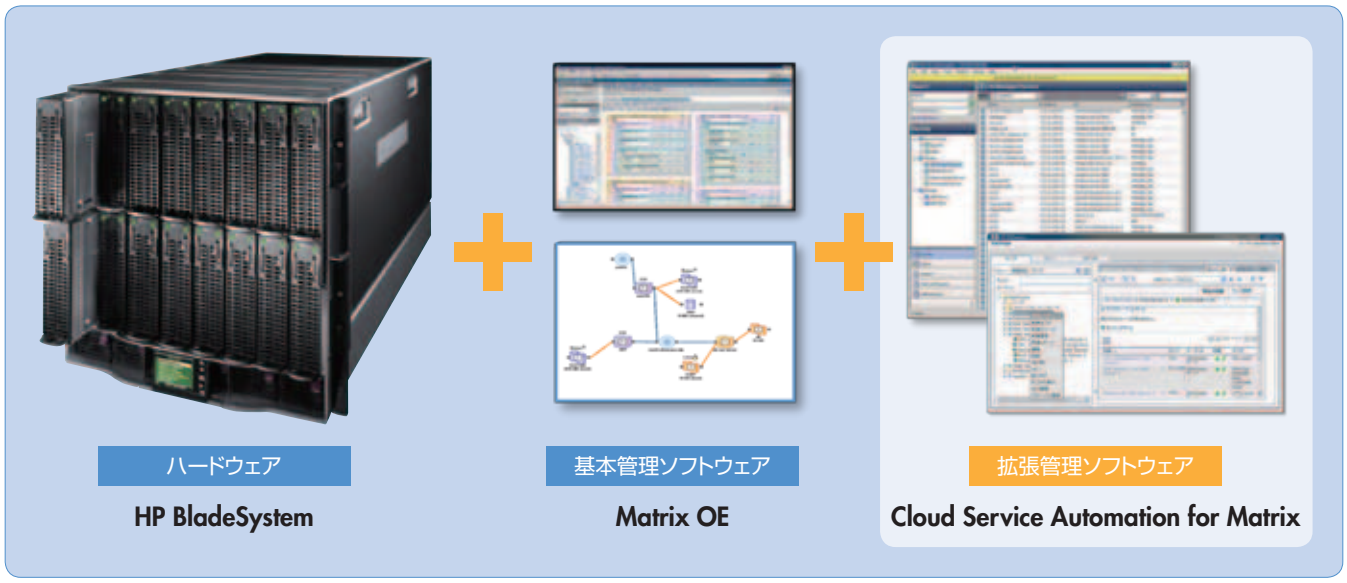
HP Converged Infrastructure（コンバージド・インフラストラクチャ）

ITのスプロール化（無秩序な拡大）によって、IT予算の70%が運用／保守に費やされ、新規アプリケーションへの投資は30%に抑制されています。HP Converged Infrastructureによって、この比率を逆転させることができます。
HP Converged Infrastructureは、コンピューター、ストレージ、ネットワーク、電源冷却およびIT設備の既存リソースの統一管理を可能にすることで、仮想化され、高度に自動化された弾力性のあるデータセンターを実現する戦略、アーキテクチャーです。ビジネス価値の迅速な創出、管理の合理化、利用率の向上、およびエネルギーコストの低減といった利点をもたらします。

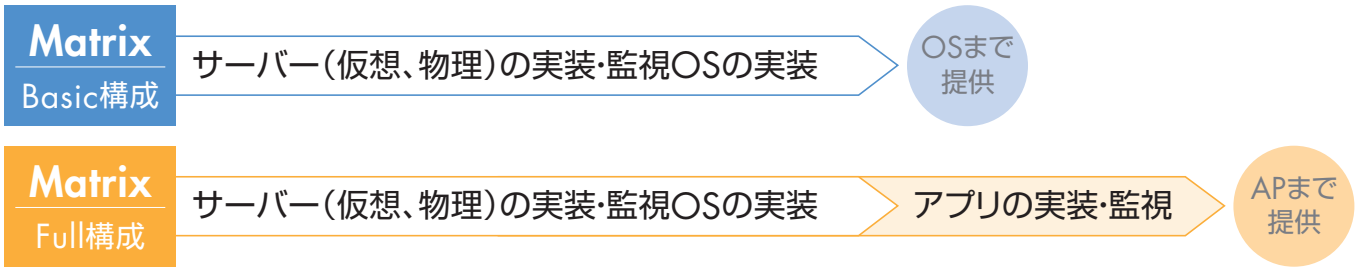
インフラからアプリケーションまで自動プロビジョニング

HP CloudSystem Matrixは、サーバーとネットワーク、ストレージで構成されるシステム基盤構築、仮想および物理サーバー上で稼働するOSまでを提供する「Basic構成」と、さらにそのOS上で稼働するアプリケーションのインストールやパラメーター設定、パッチのインストールまでを一気通貫で実行、さらにアプリケーションやOSの稼働監視まで行うことができる「Full構成」と、必要な機能レベルに合わせた構成を選択することができます。(Basic構成は導入後にFull構成にアップグレードすることも可能)

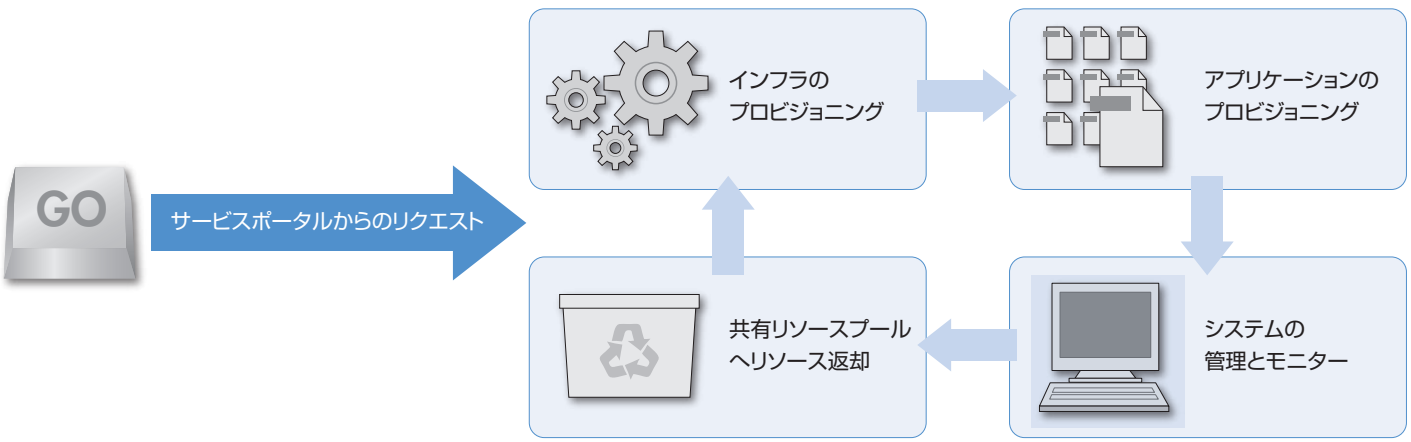
「Full構成」のHP CloudSystem Matrixは、「Basic構成」の構成要素であるHP BladeSystem(ハードウェア)、Matrix OE(Matrix基本管理ソフトウェア)に加え、「HP Cloud Service Automation for Matrix」(Matrix拡張管理ソフトウェア)がインテグレーションされます。これにより、システム利用者は専用ポータルサイト上のサービスカタログから利用したいメニュー選ぶだけで、インフラやアプリケーションの構築・監視まで、一連の作業が自動的に行われて、従来に比べきわめて短時間で利用できるようになります。



MatrixのFull構成とBasic構成



MatrixのFull構成時のライフサイクル



次世代データセンター用プロセッサー

インテル® Xeon® プロセッサー 5600番台

インテル® Xeon® プロセッサー 5600番台は、最新の32nmプロセスで製造される、拡張版インテル® マイクロアーキテクチャー Nehalemベースの最新世代プロセッサーです。

インテル® Xeon® プロセッサー 5600番台(インテル社開発コード名:Westmere-EP)は、サーバー向けで最初の32nm製造プロセスを採用した最新世代のインテル® Xeon® プロセッサーです。前世代のインテル® Xeon® プロセッサー 5500番台に搭載されていたインテル® マイクロアーキテクチャー Nehalemも強化されており、処理性能と電力効率も向上しています。

向上した処理性能

インテル® Xeon® プロセッサー 5600番台は、CPUコア数がソケットあたり最大6コアになり、L3キャッシュメモリ容量もインテル® Xeon® プロセッサー 5500番台の8MBから12MBに向上し、処理性能の向上が実現されています。6コアプロセッサーモデルでは、インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーを利用すれば1システムで2ソケット24スレッドの同時実行が可能になります。

電力効率のさらなる強化

コア数およびキャッシュ・サイズを従来の1.5倍に拡張し、さらに最新の32nmプロセスを用いることで、インテル® Xeon® プロセッサー 5600番台は、同じ消費電力でも前世代製品より高い性能を実現し、電力効率が40%向上されています。

優れた仮想化性能

インテル® Xeon® プロセッサー 5600番台は、幅広いベンチマークに置いて性能向上を実現し、特に仮想化に置いてはインテル® Xeon® プロセッサー 5500番台と比較すると最高62%の性能向上を実現しています。また、32nmプロセスで製造されるため、インテル® Xeon® プロセッサー 5500番台と比較すると電力効率が約40%向上しています。これにより、より多くのバーチャルマシンをより少ない消費電力で稼働させることとなり、エネルギーコストを大幅に削減することが可能となります。

インテル® Xeon® プロセッサー 5600番台

※1:出典: SPEint*_rate_2006を用いたインテル® Xeon® プロセッサー 5600番台のインテル社内で行った測定結果に基づく(2011年1月31日現在)。詳細については www.spec.orgを参照してください(2010年2月現在)。
※2:Vmmark結果による測定値(2010年10月20日現在)。
SYSmark及びMobileMarkによる性能に関するテストや評価は、特定のコンピューター・システム、コンポーネント、またはそれらを組み合わせて行ったものであり、このテストによるインテル製品の性能の概算の値を表しているものです。システム・ハードウェア、ソフトウェアの設計、構成などの違いにより、実際の性能は掲載された性能テストや評価とは異なる場合があります。システムやコンポーネントの購入を検討される場合は、ほかの情報も参考にして、パフォーマンスを総合的に評価することをお勧めします。

⚠ 安全に関するご注意　ご使用の際は、商品に添付の取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。水、湿気、油煙等の多い場所に設置しないでください。火災、故障、感電などの原因となることがあります。

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ
03-6416-6520　月～金 9:00～19:00　土 10:00～17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)
HP ProLiant製品に関する詳細情報は　http://www.hp.com/jp/proliant

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
記載事項は2011年10月現在のものです。
本カタログに記載された内容は、予告なく変更されることがあります。
© Copyright 2011 Hewlett-Packard Development Company,L.P.

本カタログは、環境に配慮した用紙と植物性大豆油インキを使用しています。
PRINTED WITH SOY INK

日本ヒューレット・パッカード株式会社
〒136-8711　東京都江東区大島2-2-1

JPB11576-01